Probono No;007 Column

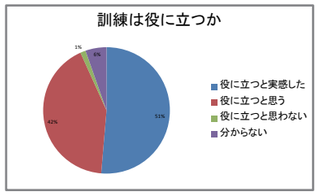
ぷろぼのでは、訓練及び支援内容の評価と改善を目的に、昨年度より『利用に関するアンケート』を実施しています。

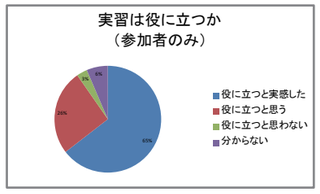
ぷろぼのでは、訓練及び支援内容の評価と改善を目的に、23年度より『利用に関するアンケート』を実施しています。24年度の取り組みについて、アンケートで利用者のみなさんから評価をいただき、今後の訓練・支援の改善に活用していきます。

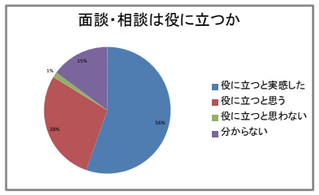
実施期間は平成24年2月25日～3月8日で、平成24年2月1日時点の状況を基に回答していただきました。実施対象は、平成24年2月1日時点で各事業所において就労移行支援サービスを利用している方です。在籍者88名の内74名が回答し、回収率は84%となりました。

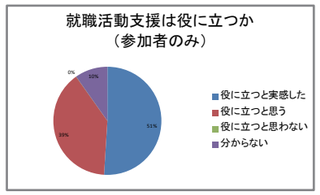
ぷろぼのの提供している支援・訓練への評価は、「役に立つと実感した」「今後役に立つと思う」という満足度が高い評価結果となりました。具体的には、今年度の成果として、訓練内容としての「作業系訓練の充実」、キャリコン・模擬面接会の実施による「就職活動支援の充実」、ウォーキングの取り組み開始による「外出機会の増大」、広域事業部による「実習先の拡充」などが評価されました。全体を通じて現在の訓練・支援体制で十分だという回答が多い一方で、新たな要望・改善点として「専門的な技術訓練の充実」「職員の面談スキルの向上」「生活面のニーズへの対応」などの意見も挙げられました。

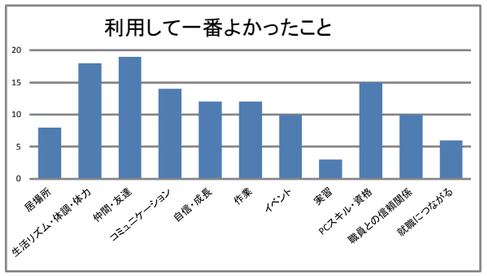
私たちとしても、これらの課題については次年度での対応を検討していきたいと思います。











当法人が運営をする福祉サービス事業所は以下のとおりです。

就労移行支援事業

生駒事業所　〒630-0257 生駒市元町2丁目1-19 元町ストレートビル1階 電話/FAX 0743-85-5658
高の原事業所　〒631-0805 奈良市右京1丁目2番地 平城第2ショッピングセンター内 電話/FAX 0742-72-2207
新大宮事業所　〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5−39 第3やまと建設ビル301号 電話/FAX 0742-35-3353
大和八木事業所　〒634-0078 橿原市八木町1丁目7−3 かしはらビル6階 電話/FAX 0744-22-0308(fax:0310)

就労継続A型事業

IPFactoryぷろぼの　〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5−39 第3やまと建設ビル202号 電話/FAX 0742-35-3232(fax:81-7320)

就労継続B型事業

SCファームぷろぼの　〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5−39 第3やまと建設ビル201号 電話/FAX 0742-35-3232(fax:81-7320)

指定特定相談支援事業

特定相談支援事業所ぷろぼの　〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5−39　第3やまと建設ビル201号 電話/FAX 0742-81-7164

地域活動支援センターⅢ型事業

〒630-0257 生駒市元町2丁目1-19 元町ストレートビル1階 電話/FAX 0743-85-5658

共同生活援助事業

GHぷろぼの　奈良市杉ヶ町　＊詳しくは広域事業部(0742-81-7164)までお問合わせください。

詳しくは、各事業所又は事務局までご連絡ください。
事務局　〒630-8115　奈良市大宮町3丁目5−39　第3やまと建設ビル201号 電話/FAX 0742-81-7032

Pro bono publicoとは、弁護士等、知的技能で仕事をしている人々が無報酬で行うボランティアの公益事業をプロボノ活動といわれている。ラテン語で「公共善のために」を意味する。

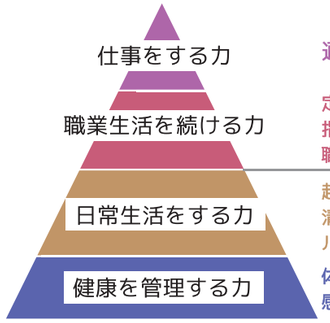
発行 / 編集　NPO法人地域活動支援センターぷろぼの　E-mail：probono@vport.org　URL：http://probono.vport.org/
〒630-8115 奈良市大宮町3丁目5−39　第3やまと建設ビル201号　TEL/FAX:0742-81-7032　2013年 5月発行

ならの就労自立を応援する

Pro bono publico
プロ ボノ パブリコ

2013 春 SPRING 夏 SUMMER Vol.7

P04.05　～働くための2年間の支援プログラム～
特集「就労移行事業」
P02 NPO法人 地域活動支援センター ぷろぼの　理事長 山内民興
さらなる就労支援プログラムの充実
P03 働く場づくりの事業
奈良県ITソーシャル・インクルージョンセンター
P06-07 各事業所報告



Probono No;007 Column Probonoコラム

平成24年度利用に関するアンケート

ぷろぼのでは、訓練及び支援内容の評価と改善を目的に、昨年度より『利用に関するアンケート』を実施しています。

さらなる就労支援プログラムの充実

NPO法人 地域活動支援センター ぷろぼの　理事長 山内民興

新緑の季節、奈良は東に三輪山、畝傍山、西に生駒の山があり、四方を若葉の垣根に囲まれた町の風情がかおる、のどかな生活の場になりました。

おかげさまで、ぷろぼのは創業 7 年目になりました。この間に多くの方の暖かいご支援をいただきましたことを、あらためてお礼申し上げます。福祉の現場では就職を目指す方に向けた活気のある取組が毎日行われています。その指針となっているのが、「就労支援プログラム」です。目指している目標は社会人としての人間性の育成です。多様な障がい種別や程度、年齢や性別、希望する職種や思いなどを受け止め、利用される方の希望に沿った支援ができるように、少しですがバージョンアップを繰り返してきています。

2 年間の基礎的な訓練

社会人として企業で働くために、利用される方の職業能力評価と技能の習得を大切にしています。

一年目は、コミュニケーション力の育成、ウォーキングでの体力強化、ビジネスマナーの習慣化、PC 基本操作の習得、グループ訓練で相手を思いやる気持ちの育成を行います。多くの方は職業経験が少なく、友人も多くないために、年齢に応じた社会性が育成されていない場合が多々あります。訓練の場でも、ちょっとした気遣いや声掛けが不足して、仲間や支援者への注意がおろそかになってしまいます。訓練では細かな手順や作業の必要性について話し合い、相互に理解してステップアップをしています。問題や課題の大半は経験していないことが原因になっています。ですから繰り返すことで、気にかけるタイミングや作業手順などの理解が進んでいます。“小さなできること”を積み上げることで、働く自信と希望が膨らんでいきます。

二年目は、自分に合った職種や職場の選択から始まります。基礎的な訓練プログラムの結果から、客観的な職業能力評価で目標とする方向が具体的になります。ですから、はじめに希望されていた職種から変わってしまうこともあります。資料を基に相互に話し合い、目標を決めていきます。目指す職種に向けたプログラムは、主に事務系と作業系になります。事務系は PC でデータを入力することや会計処理、PC ハードのメンテナンス、HP の制作、Web システムの開発、PC 操作指導などがあります。作業系はピッキングなどの現場事務や部品の組み立てなどの手作業、清掃などがあります。これからは職種に必要な職業技能を身に付けることで就職の可能性を広げていきます。

“働くことをイメージする”ための実践訓練

基礎訓練が終了すると、内部実習や一般企業での外部実習が用意されています。また実習は一人ひとりが自らの障がい特性を理解することも目的にしています。職場で配慮が必要な項目を明確にすることです。光や音、広さ、資料の位置、上司とのコミュニケーションの方法、指示命令の内容などを自分に合った具体的なものにする役割があります。どのような職場環境ならば働くことができることを自己理解することになります。

順次、キャリア・コンサルティングや面接練習などを経て、いよいよ就職活動です。もうこの頃には、スーツが似合う着こなし上手になっていて、たのもしい限りです、本年も 40 人ほどの方が卒業することになります。多くの方が就職できるように職員一体となって支援に心がけていきます。

次のページから、就労支援の具体的な取組を紹介していますのでご確認ください。

働く場づくりの事業

奈良県ＩＴソーシャル・インクルージョンセンター（ＩＴセンター）

24 年度は 6 名の障がい者を雇用しました。今後さらに多くの方の雇用に挑戦していきます。

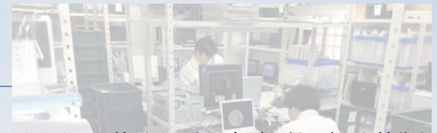
IT センターは、就労移行支援の事業所の訓練生を対象に、障がい者の雇用を創出することを目的にした事業をしています。また、働くイメージや体調管理を習得していただくために、「内部実習」の受け入れもしています。主な事業は、「アカウントセンター（以下、Pac）事業」、「福祉３Ｒ事業」、「制作と開発事業」などがあります。

記帳代行業務　「Pac」ぷろぼのアカウントセンター

一人ひとり独立した作業場が確保されています。

25 年度も障がい者雇用を進めます。

Pac は帳票類の記帳入力を行っています。現在 9 社の会計事務所様と契約し、継続して業務を頂いています。2 月、3 月は確定申告があり、1 月終わりから 2 月末まで大変な勢いで仕事依頼があり、中にはお断りせざるをえないほどでした。特に、2 月は過去最高の 24000 件を入力しました。忙しい時期を経験することで、効率化を見直すなど、いい意味で急ぐことが身に付きます。マニュアル化が進み、1 人で受注から納品までできるようになりました。



中古PCメンテナンス業務

福祉3Rセンター

ハードウェアの技術者が育っています

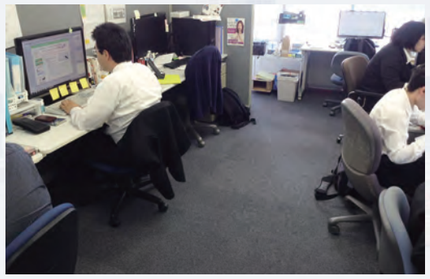
平成 23 年の 8 月に、高の原事業所の一角で始まったこの事業も、24 年度は PC 総処理数 803 台、保守契約も 18 か所で 38 台のパソコンをレンタルしています。奈良県立奈良東養護学校に株式会社オージス総研様からのリユース PC を寄贈することができました。毎週火曜日の情報学科の授業を中心に生徒さんがたちがパソコンに触れる機会が増えてきました。

福祉 3R センターの特長は、ある方が工程に応じた技術を習得すると、次の方に指導していくという、順送りのシステムになっています。これによって技術者が順次育ってきています。2 月から始めた新しい収益事業である「メモリの再販売事業」は、Yahoo! のぷろぼの専用サイトで順調に注文が増えてきています。これを見越して、新しいリサイクル会社様との取引を開始することにしています。また、メモリだけでなく、近々、販売価格が高く要望が多い CPU の再販売も実施していきます。

HPやデータ入力・奈良語り大人の名刺を制作する業務

「Proide（プロイド）」制作と開発

HP の制作や WebDB システムの開発をしています。またデジタルデータ入力や HP 更新、テープ起こしなどの業務もしています。DTP 関係では、今回「奈良語り大人の名刺」に新たに 10 パターンのデザインが追加になりました。名刺の表面に天平文様をあしらい、裏面にはお好きな万葉集の和歌を書き入れています。さらに多くの方に喜んでいただけることを期待しています。



里山ファーム

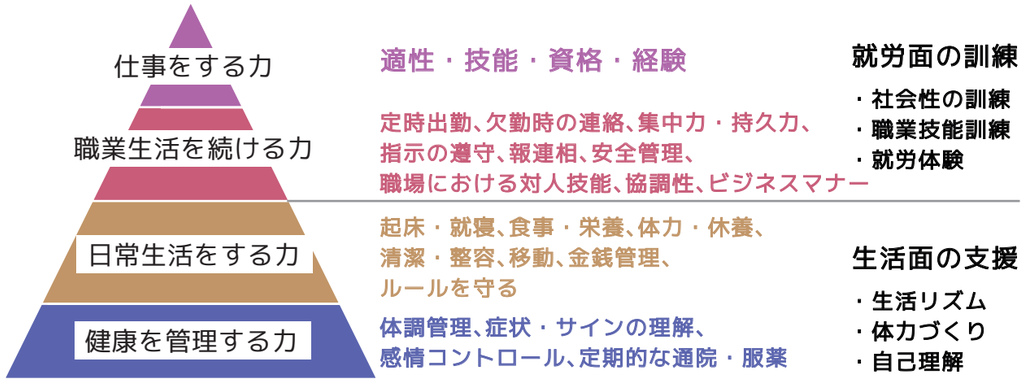
4 月から一般社団法人 里山自然農法協会様との共同事業として、職員 1 名と訓練生 4 名で、環境保全を行う里山整備事業（失われた日本の里山を取り戻すために、耕作放棄地を田畑に戻すことや竹林整備）に参加しています。当たり前のように生命があふれた場所での作業をすることで、訓練生がどのように育っていくのかが楽しみです。（阿南）

これらの事業は、就労継続支援A型事業「 IP･Factory」で行っています。

特集 「働くための2年間の支援プログラム・就労移行支援事業」

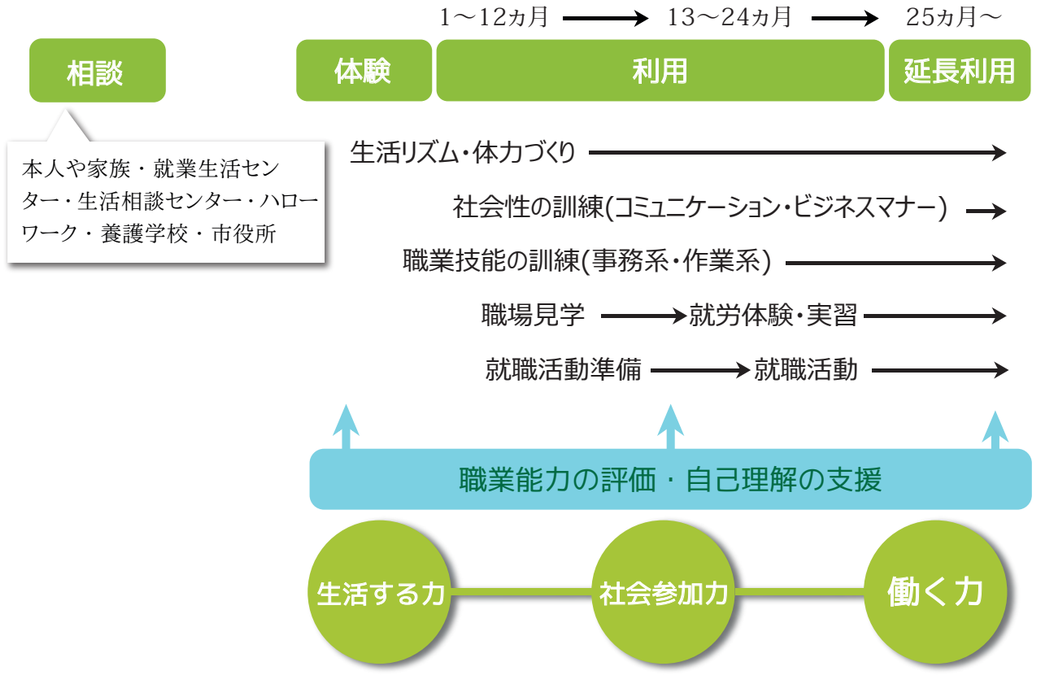
就職準備性への取り組み

ぷろぼのの就労支援プログラムは、「生活面の支援」と「就労面の訓練」の二つで構成され、働きたい障がい者の「社会で働き、生活する力」を継続的に育成することを目的としています。



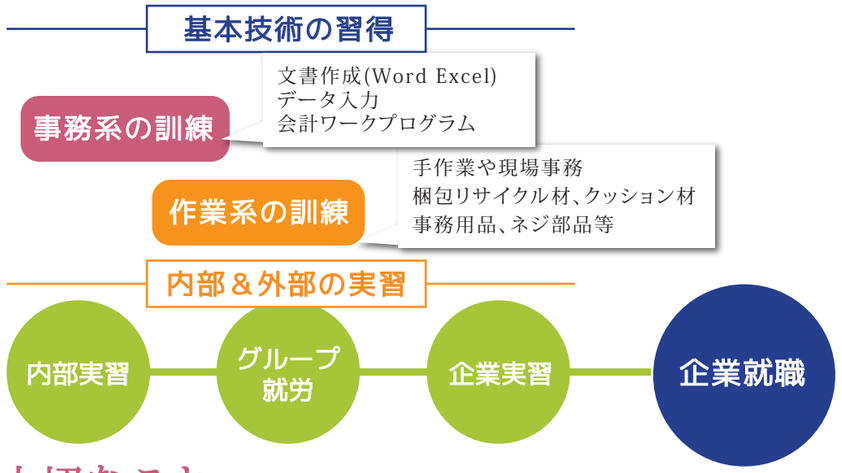
就労移行支援プログラム

基本的な２年間の支援プログラムでは、生活面の支援としての「生活リズム･体力づくり」から、「社会性の訓練」「職業技能の訓練」「就職準備の訓練」まで、就職準備性を高める訓練が行われます。その中で継続して「職業能力」を評価し、訓練生自らは「自己理解」を進めていきます。



就労面の訓練プログラム

職業技能の訓練は、「事務系の訓練」と「作業系の訓練」の2つに大きく分けられます。事務系の訓練としては、文章作成（Word、Excel）、データ入力、会計ワークプログラムなどがあります。また作業系の訓練としては、現場事務や配送部門、組立作業、清掃などがあります。事業所で基本的な訓練を終えた後は、就労体験としてぷろぼの内の職場での内部実習や、企業での外部実習などを積み重ね、就職へ繋げていきます。



訓練で大切なこと

「希望の勤務時間に合わせた生活習慣」
働く体力や継続する力を養います。また、遅刻・欠勤時の連絡を習慣化します。

「目標を意識して取り組む」
訓練の効果を上げるために、訓練・取り組みの目標を日々意識できるようにしています。

「ビジネスマナーの実践」
基本のあいさつや指示受け、メモ、適切な報告・連絡・相談ができるように練習します。

「生活する力の育成」
安定した生活環境とストレス管理を心掛け、日々の生活の安定化を目指します。

「就職に向けて意欲を高める」
少しずつ出来ることを増やしていき、自信を持って就職に向かうための意欲を育成します。

広域事業部の支援

就労移行事業所の訓練生の就職活動全般について、広域事業部が継続的な支援を行います。職場見学の開催、キャリア･コンサルティング、ハローワーク同行、模擬面接の実施、職場体験・実習の実施等で、就労体験や就職活動をサポートします。就職後も職場定着のためのフォロー支援を行います。

ITセンターの就労継続支援プログラム

障がいの状況などから２年間の就労移行支援で一般就労につながらない場合があります。そのような方々へは、職業技能を継続して育成していくプログラムとして、福祉的な支援を受けながら働く経験を積むための「就労継続支援Ａ型事業」及び「就労継続支援Ｂ型事業」があります。継続的な支援プログラムにより「就職準備性」を高めることが、就職を実現するために必要だと考えています。（米田）

各事業所報告

生駒 事業所 「イベントを通じてコミュニケーションを！」

生駒事業所では、室内の訓練と屋外の余暇活動やイベントなど、いろいろな支援プログラムを準備しています。通常の訓練から離れて余暇活動としていろいろなイベントも開催しています。人と何気なく接する機会や話す機会をもって、少しずつ社会性を身につけて行こうというねらいもあります。

この春は、映画鑑賞会に始まって、事業所でピザを焼いてみんなで一緒に食事をしたり、生駒山ろく公園でのお花見など盛り沢山でした。

４月初旬のお花見では、お弁当をみんなで食べた後、グランドでドッジボールや輪投げなどで盛りあがりました。特にバトミントンでは、勢い余ってラケットのガットを切ってしまうハプニングもありました。ウォーキングや軽いスポーツを通じて、日ごろ話したことが無かった人とも自然に会話をすることができて、コミュニケーションが苦手な方々も少し自信がついたようでした。（田所）

高の原 事業所 「みんなで楽しく、身体を動かしてストレス発散をしよう！」

みなさんのストレス発散方法は何ですか？

高の原事業所では今年１月より新しく、ストレス発散を目的とした支援プログラムをしています。訓練生の方々が、それぞれのストレス発散方法を見つけることが出来ればと思い始めました。

第１回目にはゲーム機 Wii を使い、ダンス大会を開催しました。慣れないダンスに戸惑いながらも、声を出し、身体を動かして楽しむことが出来ました。また、休憩時間には UNO やトランプをしています。このことがきっかけで、他の訓練生に自分から話しかけることが出来るようになったり、他の訓練生と共通の話題が出来て、休憩時間を一緒に過ごすことが出来るようになった方もいます。

今後は平城旧跡に行き、バドミントンなどをして身体を動かしたり、奈良のイベントに参加するなど計画しています。楽しい時間をみんなで過ごせたらと考えています。

ストレスに対応する能力を身に付けることは、働き続けるうえで、とても大切なことです。訓練生一人ひとりが、仕事を続けられるように上手くストレスの発散ができる方法の発見になればと思っています。（砂本）

新大宮 事業所 「自分を知り、仲間を知る学習会」

４月２日の「世界自閉症啓発デー」に、新大宮事業所では「自分を知り、仲間を知る機会」として自閉症・発達障害の学習会を行いました。

発達障害の概念を学び、自閉症やアスペルガー症候群、注意欠陥・多動性障害、学習障害の障がい特性を整理しました。その後、発達障害のある当事者を取り上げた２つのドキュメンタリー番組を観ました。１つ目は『きらっといきる』の「僕を知るため、知ってもらうため～アスペルガー症候群・吉岡詩郎さん～」（2011 年２月 18 日）、２つ目は『福祉ネットワーク』の「ボクの生きる“自閉症の世界”」（2007 年２月 28 日）です。番組内で話題となった「自分の取扱説明書」は、ぷろぼのでもチャレンジプログラムを通じて「自己整理シート」という形で作っています。

感想を共有する時間では、発達障害のある参加者が「自分もこういうことが苦手だと共感した」「支援を受ければ働けるかもと思った」と話す場面もありました。その他の障がいの方も、「発達障害を知る良い機会になった」「自分も『自分の取扱説明書』が必要と感じた」などと話されていました。障がい種別に関係なく、全員にとって自分の障害のことを考える良い機会となりました。

今後も「自分を知り、仲間を知る機会」として、発達障害だけでなく他の障がいについても、このような機会を作っていきます。（角光）

大和八木 事業所 「開設2年目を迎えて」

大和八木事業所は、この４月で開所２年目に入ります。３月末現在では、訓練生も 21 名となり、さらに体験中の方も４名います。２年目を迎える訓練生も徐々に増えてきています。ぷろぼのの標準的な支援として、２年目は実習などを含めた、働くための実践的なトレーニングを行っています。

基礎的な訓練を終え、新たな訓練に入る方に対してサポートを行うトレーニングを始めています。自分が受けた訓練を、サポートする立場になったときに、客観的にとらえられるようになったり、また、相手を理解し思いやることから、新たな気付きがうまれると感じています。今はまだ、サポートする側が、される側の作業を代わりにしてしまったり、指示的になってしまうこともありますが、そういったことを一つひとつ振り返りながら、自己理解が進んでいくことが大切だと感じています。これから利用される方の思いや希望をお聞きし、丁寧な支援ができるように心がけていきます。そして利用期間中に全員の方が就職できるように取り組んでいきます。（辻本）

地域貢献室 「昨年9月より、毎月「ぷろぼの見学・説明会」を開催」

「働きたい」という気持ちがある障がい者や就労支援をしている関係機関及び養護学校の先生方、保護者、大学、高校、専門学校、医療現場の方に毎月事業所見学会をしています。ぷろぼのの就労支援プログラムの紹介や訓練の様子、また働く場の事業内容など見ていただいています。この場では参加された皆様方から、感想や多くのご意見を頂きます。これを訓練の現場に伝えて、より良い就労支援になるようにすることが私たちの大切な役割です。

３月 26 日（火）～ 29 日（金）の４日間、４事業所で行った見学会には、40 名以上の参加を頂きました。その場では、「実際の職場に近い環境が整っているに驚いた。」「分りやすい説明で視野が広がった。」「2 年間、 訓練を受けることで道が開けるように見えた。」「ぷろぼのを是非利用したい。」など、このような意見を頂いています。（ 増本 ）

広域事業部

平成 24 年４月に広域事業部が発足し、ぷろぼの利用者の生活・利用相談から就職支援まで一貫して支援を行いました。

特に、職場見学（月１回程度開催）、キャリア・コンサルティング、就職セミナー、職場体験（グループ就労２か所開拓）、ハローワーク同行、就職前提職場実習の充実を図り、24 年度は 26 名が就職（前年比 1.5 倍増）し、離職者 (6 か月以内) は会社閉鎖による１名のみでした。

「資生堂身だしなみセミナー」

１月 15 日に資生堂販売株式会社様の協力を得て、身だしなみセミナーを開催しました。男性 20 名、女性 15 名が参加しました。男性編は身だしなみの大切さとスキンケア、ヘアケア、ハンドケアを実習しました。女性編はスキンケアと就職活動時のメイクについて実習しました。

「おそうじセミナー」

１月 31 日、２月７日と２回にわたり、NPO 法人ならチャレンジドの代表赤川義之様の協力を得て、おそうじセミナーを開催しました。ビルメンテナンスを行っている株式会社シティーサービス様などの職員から、モップかけ、トイレ清掃、窓ふきについて、講義と実習で教えていただきました。

「就職セミナー」

サポート 21・奈良の馬郡繁さん（元シャープ特選工業代表取締役社長）をお招きして、３月２日に「障害者雇用の現状と企業が求める人材について」講演を開催しました。ぷろぼの利用者 68 名、保護者 15 名が参加。奈良県の障害者雇用数や企業における障害者雇用の進展や課題について、企業の目線からご講義をいただきました。

また、３月 14 日は面接対策・特別講座として、自己PRの仕方や障がい内容についての説明の仕方などについて講義と模擬面接を行いました。（小島）

事務局 平成24年度は、ぷろぼのでも大きな飛躍となる一年でした。

平成24年度は、ぷろぼのでも大きな飛躍となる一年でした。

生駒・高の原・新大宮に加えて、新たな拠点を2か所設けました。4月に橿原市に、テクノパークぷろぼの大和八木（就労移行支援）を開所しました。また、10月にSCファームぷろぼの（就労継続B型）を、2月に奈良市内に、GHぷろぼの（共同生活援助）を、3月には指定特定相談支援事業所ぷろぼの（指定特定相談支援）を新大宮事業所に開所しました。

24 年度は「広域事業部」を設置し、相談支援及び就労支援体制の強化に取組みました。これにより、平成23年度では18名であった就職者数が平成24年度には26名と飛躍することができました。その他、ぷろぼの就労支援システム「Port」やWeb人事考課制度の導入や、なら風パソコンサロン事業・なら語り大人の名刺事業・グループ就労事業など、新たな事業等を開始しています。

平成24年度当初に40名であった職員数も60名近くにまで増え、法人会計の規模も日々膨らみ複雑になってきています。また、平成25年度の開始早々、いくつかの新規事業を始める準備を整えています。そのように進化する法人を支えるために、大量の事務量を、よりシビアで迅速に処理することが求められ、事務局員一同、身の引き締まる思いでいます。

最後に、昨年度からは各事業所の利用者が事務実習として事務局に来るケースも多くなりました。緊張感のある事務局にて、一人でも多くの実習生を育て社会にも送り出すための一つの部署としても、私たちは寄与したいと考えています。（田中）